

2006年 春季号(No.29)

佐 潟 通 信

佐潟水鳥・湿地センター

佐潟の近況「春のようす」

今冬は新潟県内の雪の多さから、いきものたち特に雁や白鳥の動向に大きな変化が見られました。佐潟では、12月早めに厳冬が来て、早めに冬が過ぎ去った印象を感じました。とはいえ4月になってからも積雪はあり、冬を同居させながら春を迎えました。

今年、佐潟はラムサール条約登録10周年の節目の年になります。(登録日は1996年3月23日)

3月23日ラムサール登録の誕生日10歳を迎えました。



自然・野鳥情報

2月17日

先週まで3000羽ほどいたハクチョウも今週に入り1000羽以下に激減しました。

2月24日

春霞のような早朝の佐潟。昨年の中頃は約1000羽のハクチョウがいました。中道ではウグイスの初鳴きを確認、上潟周遊ではホオジロのさえずりを聞きました。

3月3日(金) オジロワシ(終認)

3月5日(日) ミサゴ(初認)

4月2日(日) ツバメ(初認) コハクチョウ(終認) * その後も着水情報あり

4月8日(土) キビタキ、コムドリ(初認)



4月12日 桜開花 ゴイサギ100(初認)

4月14日 コチドリ、ウソ、サシバ(初認)

4月19日 クロツグミ、ルリビタキ(初認)

4月20日 フクロウ(初認)

4月26日 オオヨシキリ(初認)

4月27日 センダイムシクイ(初認)

チュウヒ終認

4月28日 オオルリ、ツツドリ初認

5月6日 コアジサシ5羽、コサメビタキ(初認)

5月17日 カッコウ(初認)

5月19日 オオバン(巣づくり開始)

5月20日 イソシギ(初認)

5月24日 コヨシキリ(初認)

5月25日 クロハラアジサシ(初認)



4月15日求愛ディスプレイの一種と思われるユニークなオオバンの行動を観察

佐潟の野鳥紹介「エナガ」



スズメ目・エナガ科

英名：Long-tailed Tit

学名：*Aegithalos caudatus*

見分け方のポイント

体長の割合に尾が長い。体は丸くてスズメよりずっと小さい。

平地から山地で繁殖し、冬も大きな移動をしません。地衣類・枯れ草・羽毛・クモの糸などを用いて、卵形の巣をつくります。非繁殖期には家族を中心とした群やカラ類と一緒に生活し、水場などへも必ず群れできてにぎやかに集団水浴をします。細枝や葉先にぶら下がって、おもに小形の昆虫やクモなどを食べます。チーチーチーと細いすんだ声で鳴き、ジュルリ、ジュルリと特徴ある声をはさみます。

佐潟では、一年中周辺の松林やヤブに生息し、一部は繁殖しています。

全長：13.5cm

体重：6～8g

佐潟の植物紹介「ドクゼリ」

日本およびユーラシア大陸に広く分布し、沼、小川などの湿地に生える有毒の多年草です。

花は、枝先に白色の小さな丸い花を10個ほどつけ、茎は中空で90～100センチになり太くて竹のような節のあるのが特徴です。特に地下茎や根にはシクトクシンという毒成分が多く含まれています。ゼリと間違えて食さないよう十分注意が必要です。花期 6月～8月



セリ科

学名：*Cicuta virosa*



セリ

ドクゼリ



根茎部

佐潟の観察ノートから（2006年3月～5月の佐潟）

2006年3月3日（金）

冬に逆もどりの景色。カモもまばらな水面の向こうに、いつもの松の木にオジロワシがとまっていました。観察舎正面のヨシ原でオオジュリンがヨシの皮をはぎエサとりをしています。顔の黒みが増えてきました。



2006年3月10日（金）

本日一部手分けして全周。ウグイスやホオジロがさえずり、心地よい。ヒバリは7日に初鳴き。マヒワを確認するなど小鳥たちも渡りの始まりを感じます。トビ、キジバトの巣材運びも頻繁になってきたようです。潟は水門が閉められ水位が上昇してきました。オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウも開花しました。



2006年3月17日（金）

ウグイスやホオジロなどがさえずり小鳥達も春らしい様子。草木も芽吹き佐潟はだんだん春へと衣替えを始めているようです。

2006年4月7日（金）

風はほとんどなく、雪がわずかに残った角田山が湖面に映っている。ジョウビタキ、ツバメを多数観察。ハクセキレイがさえずり始めた。公園の桜のつぼみが膨らみを増し鮮やかに色づいてきている。開花が待ち遠しい。

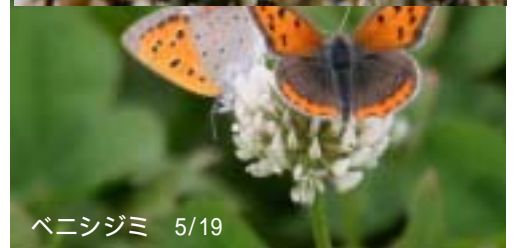


2006年4月14日（金）

天候のせいか小鳥の動きが少なく感じられる。12日にはゴイサギを初認。

2006年4月21日（金）

美しい桜が咲き乱れ、メジロが群れてやってきました。



地球温暖化対策の一つ新潟市の「菜の花プラン」に協力し昨年9月に種まき作業した畑で、菜の花が咲きました。畑が佐潟のすぐ脇にあり菜の花に囲まれて佐潟を眺める風情は格別でした。

次回は別な遊休畑でも実施できればと地元の方に呼びかける予定です。

佐潟での行事・保全活動(2006年春)

🦢 ラムサール条約登録 10 周年ミニ発表会

豊かな自然環境が世界的に認められ、ラムサール条約湿地となった佐潟は、今年の3月23日をもって、登録10周年を迎えることとなりました。この豊かな自然は、地域住民の方々の知恵と努力によって守り継がれてきたものであり、この環境は今後も将来に渡って、地域住民はもとより様々な方の協力により守っていかねばなりません。そこで、佐潟の保全に関する研究や、佐潟が歩んできた歴史・人との関わりについて、ミニ発表会を開催しました。



日 時 平成 18 年 3 月 26 日 (日) 午後 2 時 ~ 4 時 30 分
会 場 佐潟水鳥・湿地センター

< 研究発表 >

地域住民による保全策の研究・佐潟と歩む赤塚の会 涌井 晴之さん

佐潟の成り立ちに関する研究・新潟大学大学院自然科学研究科 岡本 郁栄さん

地下の堆積物の解析による佐潟の歴史的变化に関する研究・

新潟大学積雪地域災害研究センター 本郷 美佐緒さん

佐潟の水域推定に関する研究・新潟大学教育人間科学部 佐藤 亮一さん

< 佐潟の歴史・活動発表 >

佐潟水鳥・湿地センターからみた「佐潟」・佐潟水鳥・湿地センター 佐藤 安男さん

佐潟の歴史と人との関わり・赤塚漁業協同組合 高野 五三郎さん

🦢 赤塚中学校佐潟クリーンアップ活動

5月9日、赤塚中学校全生徒で、佐潟周辺のクリーンアップ活動を実施しました。生徒達は額に汗を流し一生懸命にゴミを拾っていました。こうした活動が実を結び、年々ゴミも少なくなっているようです。



センターからのお知らせ

3月、これまでの100インチマルチビジョンを更新する形で、65インチ、プラズマビジョン2台が館内に設置されました。これまで通り野外の高倍率カメラでとらえた高画質な映像はもちろん、解説や発表会などでのパソコンを使ったプレゼンテーションも可能になりました。

4月から湿地センター職員が3人になり、通常2人勤務体制になりました。新しい職員は岸本といいます。よろしくお願ひします。



🦢 佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】 9 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0 (冬期間の 1 1 月から 2 月の 土・日は 7 : 0 0 から)

【休 館 日】 月曜日 (但し祝日の場合は翌日)、年末年始

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽に F A X か E-mail をください。

編 集 佐潟水鳥・湿地センター

〒 0 - 2 2 6 1 新潟市赤塚 5 4 0 4 番地 1

電話 0 2 5 (2 6 4) 3 0 5 0 / fax 0 2 5 (2 6 4) 3 0 5 1

E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発 行 新潟市市民局環境部環境対策課

〒 9 5 1 - 8 5 5 0 新潟市学校町通 1 番町 6 0 2 番地 1

電話 0 2 5 (2 2 8) 1 0 0 0 (内線) 2 7 3 1